アメリカンスタディーズ　ボストン研修

テーマ：自由の獲得

自由の国とも言われるアメリカ合衆国ですが、自由という言葉へのイメージは人それぞれでしょう。
　イギリスから390年前に植民者が移り住んできたときから現在に至るまで、「自由」というのはアメリカを象徴するテーマです。独立宣言書でも、自由とは誰にも譲ることのできない権利であると言及されています。
　今回私たちはアメリカにおける「自由」の内実を、宗教、政治、経済などの側面からより深く理解するため、アメリカの中でも最も歴史の深い街、ボストンへ研修に行ってまいりました。

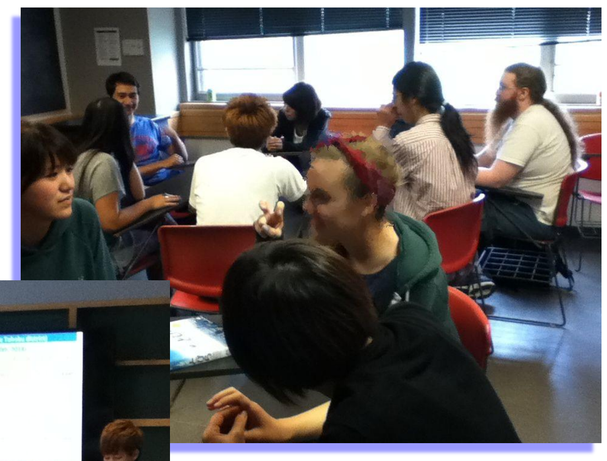
プリマス

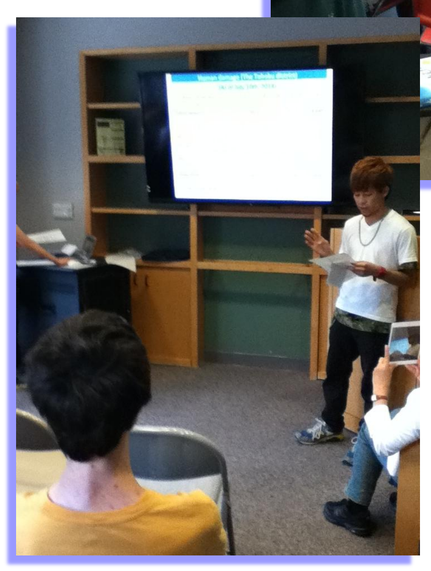
マサチューセッツはボストンから50kmほど南下したところがアメリカ発祥の地、Plymouth(プリマス)です。
　390年前、宗教的な自由を求めたピューリタンを初めとするイギリスの植民者たちは、メイフラワー号に乗って新天地・プリマスへやってきました。聖書を唯一の教義とするピューリタンは、教会による教義を重視するカトリックと衝突していたのです。現在のプリマスには、メイフラワー号のレプリカや、植民者を迎えてくれたワンパノアグ族のMassasoit(マサソイト)酋長の像、植民者のリーダーであるBradford(ブラッドフォード)の像など、見どころは多くありましたが、まだガイドの英語は十分聞き取れませんでした。
　その近くにあるプリマス・プランテーションという展示館にも行きました。
これは当時の植民者と先住民たちの暮らしていた村を再現し、その中でスタッフが当時の人々になりきっている、というユニークなものです。質問するにも英語しか通じませんので、能動的に英語を話すいいきっかけになりました。

ボランティア

ボランティア活動のため、Community ServingsとHAPHIに行ってきました。Community Servingsは、マサチューセッツ一帯の経済的に不自由している人々に食料を配布するNPOです。今回私たちは、食品の包装作業のお手伝いをしました。対象が州全体ということもあり、かなりの量がありましたが、やたら「クレイジー」や「お前はクビだ」などと連呼する陽気な人に教えてもらいながら、なんとかやりとげることができました。
　HAPHIは、ハイチ系アメリカ人の健康・福利向上を目的として運営されているNPOで、ちょうど私たちが訪れたときは精神疾患を抱える子供たちのためのプログラムをしていました。私たちはタフツで行う予定のプレゼンを子供たちに披露したり、日本伝統の遊びである折り紙を教えたりしました。

タフツ大学





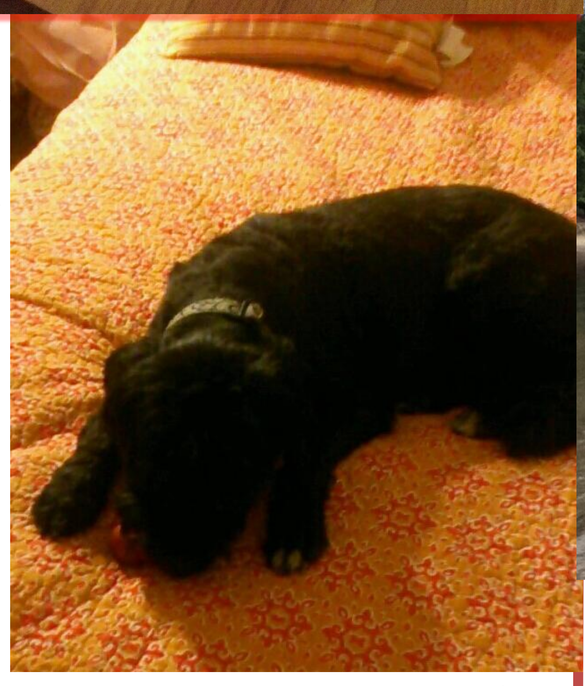
ボストンの市街地から10キロほど北西に行ったところに、タフツ大学はあります。今回私たちは、アメリカの学生に東日本大震災と復興、地域振興、大学生活の3テーマについて伝えるためにタフツ大学へ行ってきました。緊張して噛むこともありましたが、４日前にウィーロック大学を訪れた時、キャリアン先生とウェンディ先生に教えて頂いた、ジェスチャーや発声などに関する技法を生かし、無事成功を収めました。
　それだけでなく、タフツ大学の中を見学させていただきました。タフツ大学のマスコットである象「ジャンボ」の像や、第二次世界大戦で使われた大砲、学生のアート作品など、あちこちに様々なものが据えられていました。もちろん大砲は現在使われていませんが、ペンキで自由なメッセージを描くことができるようになっています。プロポーズのメッセージを描く人もいるそうです。

酒

アメリカは飲酒の年齢制限が21歳で、身分証確認も日本よりもかなり厳格に行われています。お花見のように、外で飲むことも禁止されています。

私達のガイドであるEm(エマ)さんに案内して頂き、日本スタイルの居酒屋に行きました。店員は大半が日本語を話せるようで、お客さんも日本人が多いように思いました。ただし、さすがに年齢確認はアメリカ準拠で、21歳以上でもパスポートを忘れた人はアルコール飲料を注文できませんでした。日本の運転免許証もダメです。料理人も日本出身なのでしょうか、味は上出来ですが高いです。飲み放題など怖くて頼めません。

日本では5人に1人が犬を飼っているという調査がありますが、アメリカは36%と、より多くの人が犬を飼っています。私たち6人のうち、5人のホームステイ先には犬がいたことからも、アメリカ人の犬好きが伺えます。ペットにあがりこんできたり、はぐれた結果現在の飼い主に拾われたりと、ペットもまた個性的です。



どのホストファミリーもとても親切で、一緒にちらしずしを作ったり、映画を見に行ったりもしました。が、食事がやたら多かったり、部屋の照明が暗めだったりと、やはりいくつか日本と異なる点はありました。

ホームステイ

交通

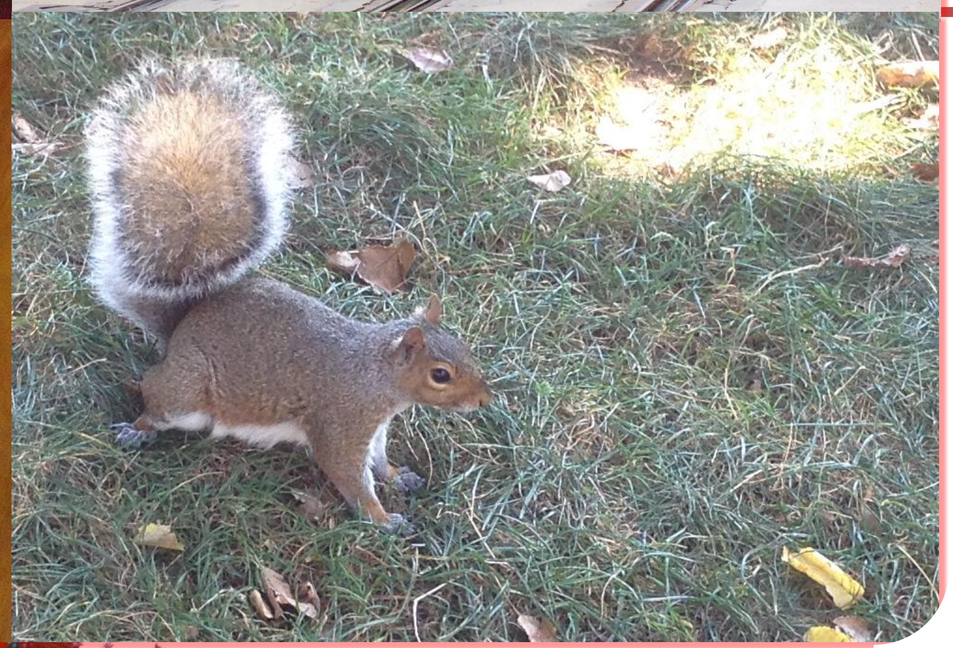
成田から12時間かけてローガン空港に着いても、さあ遊ぶぞ、というわけにはいきません。入国審査です。ゲートには何人もの審査官がいるのですが、態度はさまざまです。運よく優しい人ですんなり通れた人もいましたが、厳しい人に当たって根掘り葉掘り慣れない英語で聞かれた人もいます。これば かりは運次第です。

*1

ボストン市内には多くの地下鉄路線があるのですが、やはり日本とは違います。乗降が少ない駅では、バスのようにボタンを押さないと通過してしまうことがあります。

また、雨漏りもしますが、地元の人はいつものことで気にしていない様子でした。

*2



公園など、少しでも植物があればリスがいます。日本でのカラスぐらいよく見かけます。かわいいのですが、むやみに近づくと噛まれて狂犬病がうつることがあるそうです。見るだけにしましょう。

作家で哲学者のHenry Thoreau(ヘンリー・ソロー)が住んでいた場所の近くにあるWalden(ウォールデン)池にも行きました。森に囲まれたすがすがしい場所で、泳いだら気持ちいいだろうな、と思いながら足だけつけてみましたが、よく見ると既に泳いでいる人がいました。

自然

*1:©By Adam E. Moreira (Own work) [GFDL (http://www.gnu.org/copyleft/fdl.html) or CC-BY-SA-3.0 (http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/)], via Wikimedia Commons

*2: © By Toshi Aoki - JP Spotters [CC-BY-SA-3.0 (http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0) or CC-BY-SA-3.0 (http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0)], via Wikimedia Commons